



東山代小学校便り

※学校ホームページ



※写真等パスワード

higashi07

2026. 3. 24

文責：中尾

◆「人にやさしく、まじめにがんばる子」

◆新たな歩みを

本日、令和7年度修了式を迎えることができました。

3月3日(火)には、本校やコミュニティセンター、留守家庭児童クラブの建設にかかわられた多くの方々のご臨席を賜り、「東山代複合施設落成式」が挙行されました。式の中でのキーワードは、「あまり例のない学校とコミュニティセンターとの複合施設」「地域と共にある学校やコミュニティセンター」「東山代町の更なる発展」でした。今後、子どもたちを含む、東山代町の「ひと」「こと」「もの」をつなぐ拠点となることが期待される施設であることを確認したところです。

3月17日(火)には「令和7年度伊万里市立東山代小学校第79回卒業証書授与式」が挙行されました。6年生がそれぞれの未来へ向かって羽ばたいていきました。2月の学校だよりでもお知らせしていましたが、今年度の「卒業証書授与式」は、全職員で、一人一人の「『ちがひ』を認め合い、支え合う子どもたちの思い」を大切にしたいと考えていました。6年生全員が出席し、6年生全員が壇上で卒業証書を受け取ることができました。まさに、子どもたち一人一人の個性が輝いた式になったと思います。中学校での更なる飛躍を期待しています。

卒業証書授与式の翌日からは、5年生がリーダーシップを発揮しています。

新築校舎2年目の新たな歩みを期待しながら、修了式を迎えました。

◆卒業証書授与式式辞（一部抜粋）

皆さんは、この東山代小学校の長い歴史の中で、記念すべき一年間を過ごすことができた卒業生です。それは、東山代町の皆さんが待ち望んでおられた、この新校舎での学校生活をスタートさせた卒業生だからです。そして、皆さんは、新校舎での新たなスタートと共に、この学校に新たな伝統を残してくれたと思っています。

朝の校門で交わした「おはようございます」の声。挨拶は、「自分の心を開き、自分から相手に近づく」という「人と人をつなぐ大切な営み」です。その大切な営みを、皆さんは毎日続けてくれました。皆さんの姿は、全校に広がり、今では、一年生から六年生までがその日の都合に合わせて参加するという、他の学校ではあまり見られない、主体的な挨拶運動へと発展し、この学校の新たな伝統を築くことにつながりました。

また、長崎への修学旅行でも印象的な場面がありました。それは、原爆落下中心地で行った平和集会です。皆さんの、「戦争や争いのない未来」や「世界の平和」を心から願う純粋な思いは、

外国からの多くの観光客を立ち止まらせ、原爆落下中心地の空気を一変させました。私は、皆さんの純粋な思いが、その場にいた人々の心に響き、一瞬にして平和を祈る空間に変わったことに感動すら覚えました。平和のために、まず自分の周りを大切にするという優しさは、これからの社会で必ず必要とされます。そして、やがては世界の平和につながります。

さて、皆さんが、この学び舎を巣立つにあたって伝えたいことがあります。

皆さんが歩むこれからの人生において、「涙するほど悔しいこと」「涙するほど悲しいこと」は必ず訪れると思います。それは、誰もが経験することだと思います。

「悔しくて泣きたいときは泣けばいい。」「悲しくて泣きたいときは泣けばいい。」大切なのは、泣き終わった後のあなたの行動だと思います。悔しくて涙を流したのなら、涙が止まるまで努力することが大切だと思います。悲しくて涙を流したのなら、その悲しみは忘れずに、その分、人に優しくなることが大切だと思います。

皆さんには、あたたかな絆で結ばれた友だちがいます。皆さんには、自分の力で立ち上がる力があります。その「友だち」と「力」を信じて、「私は、私の人生の主人公、そして責任者！」

この東山代小学校での思い出を力に変えて自分の人生を突き進んで欲しいと思います。

◆人事異動（大変お世話になりました）

4月の定期異動により、以下の職員の転出・転入がありました。転出者については、勤務の長短はあるものの、保護者の方々はもとより地域の方々にも大変お世話になりました。この東山代小学校に勤務することができて本当によかったと思っています。子どもたちの成長と東山代町の発展を心から願っております。

No.	転出者氏名	職	転出先	転入者氏名	職	転入元
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						